

# 柏木教会月報

東京都新宿区北新宿3-1-18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

## 激動の時を生きて

テモテへの手紙一三章一四～一六節

神の家とは、真理の柱であり土台である生ける  
神の教会です。（一五節）

使徒パウロはコリントの教会について、「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です」と語っている（一コリント三・六）。教会の歴史を顧みるとき、わたしたちは生きる主のみ前に立たせられ、そのみわざの不思議さの前に立たせられる。主がみわざに仕える者たちを起こし、その祈りと志と奉仕を用いて、この地にご自分の教会を立て、教会として歩ませてくださいました。主がこのみわざをおこなってくださるのでないならば、教会は教会として立つことはできず、教会として存続することもできない。七四年の間、主がみ手をもって教会を立て、導き、支え、主の教会として歩ませてください、今日あらしめていてくださることを、共に喜び、共に主に讃美と感謝をささげたい。

この七四年は、日本の国が激しく揺れ動いた時期であった。教会もまた否心なく、その激動に巻き込まれていった。それは地上に立てられ、世界と歴史に深くかかわる教会として避けられないことである。日本基督柏木伝道教会が建設された一九三一年から終戦の年一九四五五年までをたどってみても、柏木教会は他の多くの日本の諸

教会と同様、大きな困難の中で教会としての歩みをすることになる。困難は同時に試みであり、また、試みは誘惑であるが、主はよくこの教会を守り、支えてくださり、教会としての歩みを続けさせてくださった。この困難の時にも、柏木教会を「キリストを伝えるという中心目的のために」（植村環牧師）仕えさせてくださったことは、まことに感謝すべきことである。

教会は「真理の柱、真理の土台」として、この世に立てられている。教会それ自体は真理ではない。イエス・キリストが真理である（ヨハネ一四・六）。しかし、真理であるキリストは、人々の間で教会という一つの場所を持ち、教会において現れ、証しされ、伝えられる。わたしたちは、柱となり、土台となって真理を支えるなどということはとうていできないが、教会を立て、支え、導き、その中に住んでいてくださる神が、教会を「真理の柱、真理の土台」として立て、この世に真理を証しし、伝えるみわざをおこなってくださる。

教会の歴史は、教会がその時々の社会の流れや国家の動向に大きく影響されてきたことを明らかにしている。実際、流れに流されず、その流れの中に埋没してしまわない在り方をすることは難しい。ただ、真理である神の言葉に立つことによって、教会はそうであることができるのである。神はわれみをもってわたしたちをみ言葉へと繋ぎ止めてくださいり、このようにして教会を、揺れ動くこの世にあって、「真理の柱、真理の土台」としてくださる信じる。また、神がそうしてくださいるよう祈りたい。（一〇月一日の教会建設七四周年記念礼拝説教より）